小池の庚申塔群



八千代市小池の庚申塚



2024.11.30 八千代市郷土歴史研究会主催「ふるさとの歴史展」講演会

蕨 由美

天保2年庚申塔の台石の三猿像

庚申塔とは

庚申塔は、最も普遍的で数も多く、近世からの村落共同体建立の石塔を代表する石造物です。

庚申待は、六十日に一回庚申の夜に、 眠った人間の体から三尸が抜け出し天帝に その人の罪過を告げられないよう徹夜する という道教に由来した信仰で、室町時代ご ろから庶民にも浸透し庚申講が行われるよ うになると、その供養の証しとして「庚申 塔」を建立する風習が、江戸時代、各地に 定着しました。

庚申塔は、ムラに悪霊が入らないよう、 街道の辻に建てられることも多く、また道 しるべを兼ねる庚申塔もみられます。



八千代市勝田字仲山 文化元年(1804) 「青面金剛/右うすゐ道/左下いちば道」

小池の庚申塔群の特徴

小池の庚申塚には、庚申塔24基が壮観な姿を 見せています。その重要なポイントは?

- ① 元禄5年(1692)から現代(2019年)まで**327年間、連綿と途切れることなく続けて建**立されている
- ② 優れた像容の青面金剛像塔が3基ある
- ③ 日蓮宗系庚申塔である
- ④ 当群最古の元禄5年塔は千葉県内の**日蓮 宗系庚申塔の中でも青面金剛像塔として初発** である



元禄5年年(1692) 小池の青面金剛像庚申塔

小池の庚申塔塚の整備



小池の庚申塔群塚は、平成3年(1991)に 現代の姿に整備されました





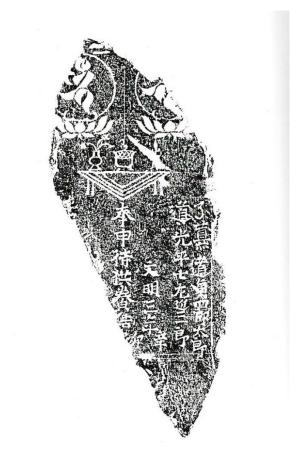
小池・庚申塔の整理 (1991年10月)

関東最古の庚申供養板碑

中世の初出は、「奉申待供養結衆」銘が刻まれた川口市実相寺の文明3年(1471)銘の板碑です。



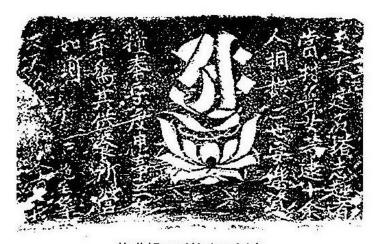
左写真は、川口市HPより



右拓本は『図説庚申塔』縣敏夫より

北総最古の庚申塔

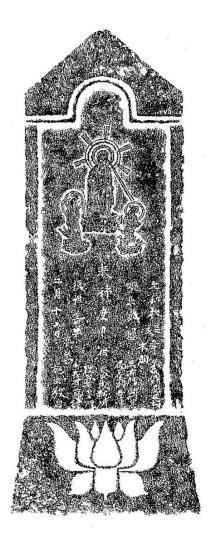
北総では、香取市貝塚来迎寺個人墓地内に、「天正二二年」 (4年1576) 「當村善女」により「奉守庚申」三ヵ年供養のた めに建立されたとの銘が刻まれた宝篋印塔があります。



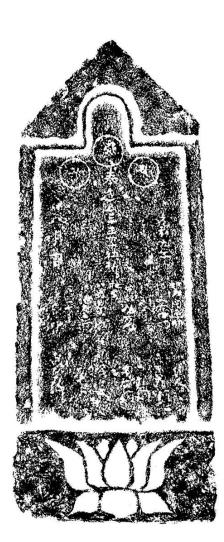
基礎部正面銘文の拓本



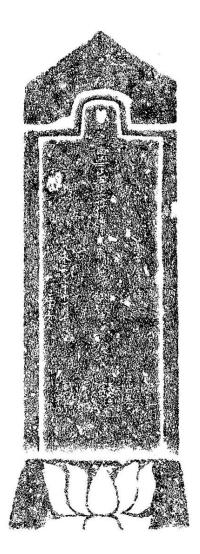
近世庚申塔の関東での初出



足立区正覚院 弥陀三尊来迎塔 元和9年(1623)



三郷市常楽寺山王廿一社文字塔元和9年(1623)



松戸市幸谷観音 山王廿一社文字塔 寛永2年(1625)

近隣の江戸時代初期の庚申塔



佐倉市先崎地蔵尊 慶安3年(1650) 「奉造立庚申人数二五人 先崎村」銘



我孫子市手賀 高野山香取神社 万治2年(1659) 板碑型庚申塔 「奉造立庚申講衆二世安楽所」銘



八千代市高本八幡神社 万治3年(1660) 三猿付 「為庚申待現當二世悉地成就処 講人数十八一結諸衆 敬白」

近隣の初期の庚申塔-如来・菩薩像



聖観音像庚申塔 寛文元年(1661)印西市竹袋観音堂



薬師如来像庚申塔 寛文10年(1670)船橋市葛飾本郷路傍



釈迦如来像(日蓮宗系) 延宝4年(1676)船橋市大神保町路傍

近隣の初期の庚申塔-青面金剛像



二手青面金剛像と三猿 寛文11年(1671) 印西市砂田庚申堂内



六臂青面金剛と二猿 延宝3年(1675) 佐倉市海隣寺町愛宕神社



二手青面金剛と一猿・鶏 佐倉市下志津原路傍 延宝4年(1676)

小池の青面金剛像庚申塔



調査日:2024.3.4

調査者: 蕨由美・青田博之・菅原賢男

調査 No. 2種類: 庚申塔通し No. 10市史 No. 10所在地: 小池 字庚申裏造立年月日: 元禄 5・11・吉像容: 青面金剛 三猿像形状: 笠付角柱型

西暦: 1692 法量: (19+79+17+20) ×59×48cm

銘文: 妙法蓮華経 奉待庚申講成弁 小池村(人名 21)



弁	小池村(人名 21)		
	左面	正面	右面
	市良兵衛 七郎兵衛 平太 人兵衛 □□郎 長三郎	(日) (日) (日) 炒法蓮華経(青面金剛像 三猿像) (月) = 一禄五壬申 +一月吉日 本願□左門	[] □十郎 新右門 長吉] □左門 文七] □左門 文七] □左門 文七] □ [□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	台石左面	台石正面	台石右面

八千代市内での青面金剛像庚申塔の出現



延宝2年(1674)八千代消防署前 市内最古の青面金剛像塔



貞享2年(1685)高津宮ノ前 前期では珍しい駒型



元禄 5 年(1692)小池庚申塚 「妙法蓮華経・・」

調査日:2024.3.4

調査者: 蕨由美・青田博之・菅原賢男

調查 No. 4

種類: 庚申塔

通しNo.88

市史 No.88

所在地: 小池 字庚申裏

造立年月日: 宝暦 9・11・吉

像容: 青面金剛

形状: 笠付角柱型

西暦: 1759

法量: (95+21) ×47×39cm

銘文: 妙法蓮華経 庚申塔 小池村講中(人名 25)



村i 再中(人名 25)		
左面	正面	右面
宝曆九己卯十一月吉日	(月) (日) (日) (日)	が が と 連華経 庚申塔 順主 浅野半右エ門
源 平 □ 甚 五 庄 四 四 之 良 六 良 亟 兵 衛		権 半 文 七 金 長次 七 次 良 蔵 三良 良 次
喜八四兵源彦三藏平八七七郎		山清茂八七長三藏兵右之五良衛門亟良
台石左面	台石正面	台石右面

画一的な像容の青面金剛像庚申塔-1



寬延3年(1750) 佐山庚申塚



寬延3年(1750) 真木野庚申塚



宝暦9年(1759) 小池庚申塚

画一的な像容の青面金剛像庚申塔-2



延享3年(1746) 吉橋尾崎字芝山の庚申塔

下総地域では、青面金剛像塔が数的にも最盛期になる中期、画一的な特徴の像容の庚申塔が多数みられるようになります。

主尊の目がアーモンド形で、右手に鈴状または人身の頭部らしき袋状のものを持ち、宝輪を持つ手が直角で水平に伸び、迫力がない邪鬼がうずくまる姿の特徴は、印旛地区・印西地区から白井市や船橋市の東部、我孫子市・柏市・栄町に広がっています。

三猿も、両端横向きで中央が正面向きの形でよく類似し、配置される台座や塔身下部のスペースにより、一列の平型、または三角型に配置する特徴があります。

印旛・手賀沼周辺の青面金剛像塔が118基、 三猿文字塔が17基あり、時代も享保3年

(1718)から宝暦12年(1762)の44年間に限 定されることが、石田年子氏は同一の石屋の 作と推定しています。 小池地区石造文化財調査カード 調査日: 2024.3.4 調査者: 蕨由美・青田博之・菅原賢男 種類: 庚申塔 通し No. 97 市史 No.97 所在地: 小池 字庚申裏 調查 No. 3 造立年月日: 明和 2·11·吉 像容:青面金剛 邪鬼 三猿像 形状: 駒型 西暦: 1765 法量: (100+25) ×56×56cm 銘文: 妙法 小池邑本願守八郎左工門 庚申講中 十五人 左面 正面 右面 月 (H 妙法 明和二酉天 庚申講中 小池邑本願守八郎左 (青面金剛 月吉日 十五人 邪鬼 三猿像) 工 門 台石左面 台石右面 台石正面

個性的で雄渾な中期の青面金剛像庚申塔



寬延4年(1751) 吉橋寺台字西芝山



明和2年(1765)小池



安永3年(1774)勝田馬橋

江戸後期に文字庚申塔に変わる



元文5年(1740) 船橋市小野田町 「南無釋提桓因天王」銘



万延元年(1860) 真木野字台 「大帝釈天王」銘

江戸中期終わりの天明期 (1780年代) ころからの庚申 塔は、青面金剛像塔から三猿 付文字塔に替わり、後期はほ ぼすべてが駒型の文字塔の時 代になります。

前半は、主尊名が「青面金剛(王)(尊)」に、文政期頃からはほぼ「庚申塔/講中」銘になり、小池などの日蓮宗地域では「釋提桓因天」、続いて「帝釈天」銘が現代まで続きます。

調査日: 2024.4.25

調査者:蕨由美・松柴慎吾・小林詔三

<u>調査 No. 5</u> 種類: 庚申塔 通し No. 119 市史 No.119 所在地: 小池 字庚申裏

造立年月日: 天明 7·11·吉 像容: 三猿像 形状: 山状角柱型

西暦: 1787 法量: (90+25) ×50×42.5cm

銘文: 奉勧請釈提桓因天王 願主 講中(人名17)



講中(人名 17)		55
左面	正面	右面
伴 「 「 「 「 「 」 「 」 「 」 一 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	奉勧請釋提桓因天王 願主	本願人 治石工門 中 ()
台石左面	台石正面	台石右面
	(三猿像)	

近隣の「釋提桓因天王」銘庚申塔



宝暦14年(1764) 八千代市真木野 「南無釋提桓因天王」銘



明和2年(1765) 船橋市大神保路傍 「南無釋提桓因天王」銘



天明7年(1787) 八千代市小池 「奉勧請釋提桓因天王」銘

調査日:2024.4.25

調査者: 蕨由美·松柴慎吾·小林詔三

調査 No. 6 種類: 庚申塔 通し No. 134 市史 No.134 所在地: 小池 字庚申裏

造立年月日: 寛政 8·11·吉 像容:三猿 形状: 駒型

西暦: 1796 法量: (97+31) ×57×54cm

銘文: 大帝釈天王(人名 27)



左面	正面	右面
十一月吉日	大帝釋天王	寛政八辰年
台石左面	台石正面	台石右面
<u>庄</u> 描傳 <u>佐</u> □林□佐文吉□茂 三三十二 良門吉□□ □	(三猿像)	「傳久長清權重栄長 <u>七</u> 豊久庄□□ 大太二太 良良良蔵蔵本七良七門八 」」

調査日:2024.5.11

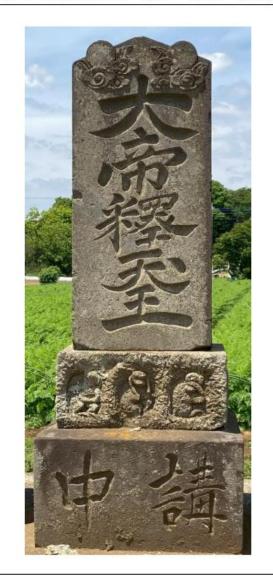
調査者: 蕨由美·松柴慎吾·菅原賢男·藤村誠枝

<u>調査 No. 12</u> 種類: 庚申塔 通しNo. 266 市史 No. 266 所在地: 小池 字庚申裏

造立年月日: 嘉永 4·11·上浣 像容: 三猿像 形状: 駒型

西暦: 1851 法量: (88+20+29) ×56×55cm

銘文: 大帝釈天王 講中 願主 (人名 22)



22)			
	左面	正面	右面
	嘉永四龍□辛亥歳十一月上浣良日	(月) 大帝釋天王	
		一段目台石正面	
		(三猿像)	
	台石左面	二段目台石正面	台石右面
	構 (九) (九) (九) (九) (九) (九) (九) (九)	中書	仙為恋作与重太清仙三久 有五左惣左郎兵之四 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

調査日:2024.4.25

調査者: 蕨由美・松柴慎吾・小林詔三

 調査 No.15
 種類: 庚申塔
 通し No. 332
 市史 No.332
 所在地: 小池 字庚申裏

 造立年月日: 明治 13・4・吉
 像容: 三猿像
 形状: 駒型

西暦: 1880 法量: (82+24) ×54×52cm

銘文: 大帝釈天王 講中 (人名 26)



	岩南	正商	七兩
	左面	(月) 大帝釋天王	方面 明治十三年辰年 四月吉日
3	台石左面	台石正面	台石右面
3	会議 大久保兵 大久保兵 本本 大久保兵 本本 本本 大久保兵 本本 大久保兵 本本 大久保兵 本本 大久保兵 本本 大久保兵 本本 大久保兵 本本 大久保兵 本本 大五 大名 大五 大名 大五 大五 大五 大五 大五 大五 大五 大五	(三猿像)	票 京 京 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗 宗

調査日:2024.3.4 調査者:蕨由美・松柴慎吾・瀬川尚子

 調査 No.24
 種類: 庚申塔
 通しNo.
 市史 No.
 所在地: 小池 字庚申裏

 造立年月日: 平成 31・3・吉
 像容: 三猿像
 形状: 駒型

西暦: 2019 法量: (85+34+18) ×78×78cm

銘文:大帝釈天王 願主 講中 (人名 11)



MAG			
裏面	左面	正面	右面
平成三十一年三月吉日建之		(月) 大帝釋天王	
台石裏面	台石左面	台石正面	台石右面
		(三猿像)	石 五 村 村 生 岩 浅 浅

近隣の「帝釈天」銘の文字庚申塔



安永2年(1773) 船橋市小野田町 「奉信敬帝釈天王守護之処」銘



寛政8年(1860) 八千代市小池 「大帝釈天王」銘



文政11年(1828) 船橋市小野田町 「帝釈天」銘

「帝釈天」銘の庚申塔の由来



柴又の題経寺の「帝釈天」像 (真木野の庚申講の掛軸から)

「帝釈天」の名がひろく知られるようになったのは、安永7年 (1778)の庚申の日に、柴又の題 経寺で「帝釈天」という像が刻まれた板本尊が発見され、その霊験

この板本尊の像は、一般的な帝 釈天像とは異なる特殊な像ですが、 その画像は「高祖御真筆の板本 尊」として刷られ、広く普及しま した。

が有名になってからといわれます。

ただし、題経寺式帝釈天像が刻まれた庚申塔は、松戸市紙敷の広隆寺の嘉永5年(1852)の像塔が県内では唯一で、他はすべて文字塔です。



嘉永5年(1852) 松戸市紙敷広隆寺 「病即消滅 不老不死 帝釈天王」銘

調査日:2024.4.25

調査者: 蕨由美・松柴慎吾・小林詔三

調査 No. 14種類: 庚申塔通し No. 317市史 No.317所在地: 小池 字庚申裏造立年月日: 明治 6・3・吉像容: 三猿像形状: 駒型

西暦: 1873 法量: (92+22) ×53×51cm

銘文: 庚申塔 講中(人名34)



3	34)				
	左面	正面	右面		
	三月吉日	(月) 庚申塔	明治六癸酉年		
1	台石左面	台石正面	台石右面		
が できた はなかべ (限) かった はない	同一 同一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	(三猿像)	村宇五十二年 一村上 一村上 一村上 一村上 一村上 一村上 一村上 一村上		

近隣の「庚申」銘の文字庚申塔



寛政14年(1792) 船橋市車方路傍 「庚申供養塔」



文政2年(1819) 真木野字台 「庚申塔」



天保5年(183) 佐山字新久 「庚申塔」(道標付)



平成3年(1991) 小池 「庚申塔」

小池の庚申塔の像容と銘文

	像容		銘文				
	青面金剛像	三猿像	妙法 (蓮華 経)	釈提桓因	帝釈天	庚申塔	=
江戸前期	1	1	1				1
江戸中期	2	4	2	1	1		4
江戸後期		6			7		7
近代		5			5	2	7
現代		3			2	3	5
							24

まとめ

- ・千葉県北西部における近世庚申塔は、千葉・埼玉・東京が境を接する江戸川流 域の発祥地に近い松戸・市川市域で成立し、東へと広がっていきました。
- ・近世初期の庚申塔は、如来や菩薩像、三猿付板碑型などが多く、しだいに青面 金剛像を主尊とする庚申塔が広まりました。
- ・小池地区などの船橋市北東部~八千代市北西部は旧中山法華経寺領であったことから、中世以来、千部講で結ばれた日蓮宗地域で、日蓮宗系の特徴を持つ庚申塔が近現代まで、数多く造立されました。
- ・八千代市内の一般の庚申塔に青面金剛像が現れるのは、延宝(1673~)期からです。
- ・日蓮宗系庚申塔は、小池の元禄5年(1692)から盛んに建立され、船橋市藤原町 の安永7年(1778)まで続きます。
- ・天明(1781~)期から、一般の青面金剛像塔が一斉に「青面金剛」銘、さらに「庚申(塔)」銘の文字塔へと変わっていき、日蓮宗系庚申塔も機を同じくして、「帝釈天(釋提桓因天)」、まれに「庚申(塔)」銘の文字塔に変わっていきました。
- ・「帝釈天」銘の文字庚申塔が多く建てられた背景として、安永7年の庚申の日 に、柴又の題経寺で「帝釈天」板本尊が発見され「帝釈天」ブームが興ったため と推定されます。

小池の庚申塔群の三猿像



元禄5年(1692)



明和2年(1765)



宝暦9年 (1759)



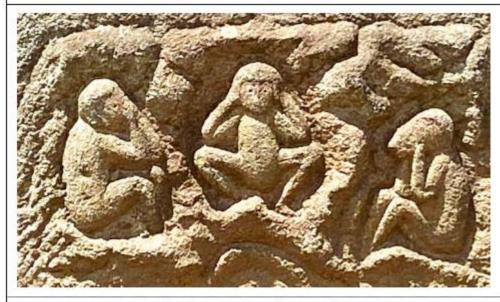
天明7年(1787)





寛政8年 (1796)

文化 4年 (1807)



文化 12年 (1815)



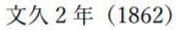
天保2年 (1831)



天保11年(1840)

嘉永 4年 (1851)







明治6年(1873)



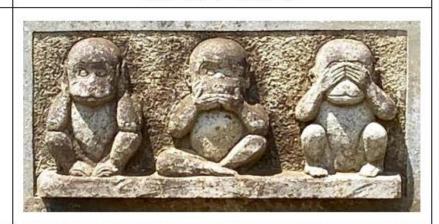
明治13年(1880)



明治 20年 (1887)



明治32年(1899)



平成3年(1991)



平成 22 年 (2010)



平成 31 年 (2019)

おわりに

おかげさまで小池の庚申塔群の調査ができました。この調査成果は『史談八千代』49号に掲載しています。





ご清聴ありがとうございました